

2020年12月会議 一般質問から

問い

現在、浅麓汚泥再生処理センター搬入の町事業系生ごみは、肥料化され「浅麓エココンポ」として配布されているが、場所が小諸市という事で、なかなか取りに行くことが容易でない。そこで、循環型社会の一環として「花いっぱい運動」等で花の苗と共に配布、住民の意識啓発活動として展開できないか？

又、町の指定ごみ袋やボランティア清掃のごみ袋を環境負担の少ない、「バイオプラスチック配合袋」にし、住民の意識啓発に繋げることは？



©KOMEITO

答え

「浅麓エココンポ」を活用し、環境啓発活動を行っていきたいと考えている。

令和元年度にバイオプラスチックを10%配合したボランティア清掃用ごみ袋を試験的に1万5千枚作成、各地区実施の境美化清掃活動に使用している。

バイオプラスチックは強度が弱く、原料単価が10倍高くなってしまうため、現在、配合率10%での強度評価をしている。

町指定袋は、評価が得られた所で、バイオプラスチック配合袋導入を検討していく。

「お悔やみコーナーの設置について」を質問！！

問い

遺族に寄り添ったお悔やみコーナーの設置はできないか？

答え

現在は無理だが、新庁舎建築時に各種相談ができるスペースを要望していく。

問い

役場だけでなく、その他手続きのチェックシートやガイドブックの作成は？

答え

町ホームページ掲載も含め、良いものを検討していく。



©KOMEITO

公明新聞の御購読をお願いします。

(日刊1ヶ月1,887円、日曜版293円 お得な電子版は日刊月額1,500円、日曜版250円です！)

お問い合わせは→川島さゆり TEL 080-9804-7656 までお願いします

No.21

2021年 新春号

さゆり通信

発行：川島さゆり 軽井沢町大字長倉 4280-5 TEL 46-2135

ごあいさつ

いよいよ、2021 年がスタートしました。

去年は皆様には大変にお世話になり、ありがとうございました。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、コロナ禍により生活様式が大きく変化する中、皆様も新年をお迎えになったことと思います。新型コロナウイルス感染症の一日も早い終息を祈ると共に、医療介護現場で働いている皆様に大きなエールを送りたいと思います。

私達も最大の防御をしながら「コロナに絶対に負けない年」にして参りたいと思いますのでよろしくお願いします。

本年は、3 期目のちょうど折り返し地点、勝負の年を迎えます。

特に社会常任委員会委員長として責務を全うできるよう、しっかりと頑張って参りますので、ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

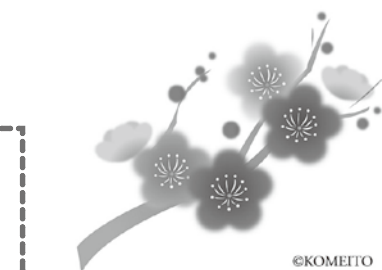
活動レポート



2020 年 11 月 19 日 (木)「すべての女性が輝く社会をめざし、子育てと仕事の両立を促進するために」の提言書を県知事にお渡ししました。私も初めて公明党女性局次長として県知事要望へ(清水県議、女性局次長と一緒に) 私からは、「不妊・不育治療を受けながらも働き続けられる環境整備等」を要望させて頂きました！



写真撮影時のみマスクを外しています



©KOMEITO

赤羽国土交通大臣が軽井沢町へ(観光協会、旅館組合、バス、タクシー協会の代表の方と直接懇談。ご要望をお聞き頂きました)

2020年12月会議 一般質問から



イラスト：斉藤暁雄

「SDGs、持続可能な循環型社会について」を質問!!

問い

昨年度の町可燃物処理量は、8,254トンだが、可燃ごみの主たる物は?

答え

総体的には、紙ごみと生ごみの割合が8割を占めている。

問い

町が今後取り組むべきごみ削減や3R運動の展開は?

答え

紙ごみが多くを占めているので、集中的に削減していきたいと考えている。家庭系や事業系の紙ごみに多くのコピー用紙が混入しており、町で回収するための制度設計を行っている。役場庁舎内の機密性がある物はシュレッダー処理、機密性のない物はそのまま回収、専門業者無償回収で再資源化を9月から先行的開始。今後は町内事業者も対象に展開、一般家庭まで拡大させ無償回収でのごみ減量化を行っていく。



©KOMEITO

問い

小中学校等はプリント配布でかなりの量が排出されているが、学校や公共施設も対象となるのか?

答え

小中学校は、独自で紙をリサイクルに回しており、町を経由せず回収業者とやりとりしている。町が回収するかについては、今後検討していく。



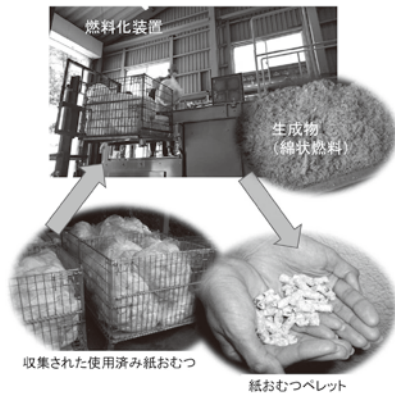
©KOMEITO

問い

鳥取県伯耆町では可燃ごみとして焼却していた「使用済み紙おむつ」をペレット燃料化。専用ボイラーで直営温泉施設の熱源にし、「エネルギーの地産地消」をしている。今後、調査・研究する考えは?

答え

紙おむつの再利用には幾つか手法があり、いずれの方法も多額の設備投資が必要で維持管理費もかかる。直接焼却と比べて費用対効果が得られるかどうか、一部は実証実験的な物もあり、技術的に確立しているのか調査が必要。又、固形燃料化した場合の燃焼ボイラーの利用先がある事や導入する場合に新たな指定ごみ袋作成必要等検討課題が多いため、今後動向に留意し調査研究していく。



収集された使用済み紙おむつ

紙おむつペレット

問い

大型生ごみ処理機を町じん芥処理場に設置し、事業系や家庭の生ごみを堆肥化することで、住民に還元できれば「持続可能な循環型社会の構築」になる。この生ごみ処理機は、もみ殻等を入れて、ゆっくり発酵させ、堆肥化するものだ。この堆肥、稲作では、有機物等食す生態系が汚染されていない指標である「カブトエビ」の生息が田んぼに確認され、お米も化成肥料と同等の甘みやうま味がある美味しいものができる。他にも小松菜やほうれん草、トマト等、美味しい野菜ができるが、農家や住民の皆様にも広く活用してもらったらどうか?

答え

じん芥処理場への大型生ごみ処理機導入は、導入に伴う経費、搬入想定量、処理能力や住民の搬入方法、他の処理方法があるか等検討が必要。今後、調査研究を行った上で導入は判断していく。



問い

町内小中学校には、既に大型の生ごみ処理機が設置されているが、給食残渣をこの処理機にもみ殻等と一緒に入れ、3、4ヶ月ゆっくりかけ第一発酵をさせ、県内堆肥センターに運搬、第2発酵させ、半年かけ堆肥化。これを町にフィードバックし、学校の花壇や畑等、中央公民館の花壇でも活用している。子供達は、自分達が食べた給食の残渣が堆肥になり、再び学校菜園の肥料となり作物として収穫し食す。まさにSDGs循環型社会であり、環境教育にも貢献している。大型生ごみ処理機未設置の保育園や木もれ陽の里、軽井沢病院等、公的施設設置はできないか?

答え

西保育園、東保育園は、小型生ごみ処理機を既に設置。保育園で排出される生ごみは、1日当たり5kg程度と極少量であり、大型生ごみ処理機は必要ないと考えている。木もれ陽の里、病院への導入は、今後検討していく。



1. 食べ残し等による食品残渣の有効活用
2. 処理施設で焼却しないためCO₂削減
3. 次世代への環境教育

問い

全住民の皆様にごみ削減や環境問題に関心を持って頂く事は、大変重要である。住民を巻き込む為に、講師や指導者としての「環境アドバイザー」又、「環境チェッカー」として普段から動植物の観察等を通し環境問題、特にごみ問題に関心を持って頂く仕組み作りとして導入は?

答え

「環境アドバイザー」については講師を派遣し、住民の環境意識への向上を図る制度だが、町では、こもれびの街講座メニューで、特定外来生物、屋外広告物、ごみ分別収集、地球温暖化、野生動物との付き合い方を用意。この他環境ネットワークにて、県地球温暖化防止活動推進センターの出前講座を活用、令和元年度に海洋プラスチック問題講演会を実施。今後も、地球温暖化防止活動推進センターや県環境保全研究所制度活用の講演会等実施、又希望する団体への斡旋を行っていく。環境チェッカーに関しては、町内の希少動物や野生鳥獣等、自然保護活動を行っている団体があるので、協働できる体制を整えていく。



©KOMEITO